



防災安全課 原課長補佐

命を守るのは自分自身の判断

災害が起きる恐れがあるとき、行政は避難情報を発令します。また、すぐメールかみや市ホームページなどを活用し、避難所の開設状況、被害の状況などをお知らせします。

しかし、これらの避難情報は、皆さんの家が大丈夫かといった個別の現場状況については把握できません。実際の避難行動や避難のタイミングは、災害の種類や状況に応じて自分自身が判断しなければなりません。

災害が発生したときに大切なのは、皆さんがそれぞれの判断で避難行動を取ることです。そのためには普段から災害時の対策を考えておくことが欠かせません。地域の防災訓練に参加したり、ハザードマップなどを入手して、災害が発生した時に地域のどの辺りが危険か確認し、避難経路などを知っておくことが大切です。

4、5 ページでは、災害時に役立つ情報と入手方法をお知らせします。日頃からこれらの情報に触れておき、いざというときに活用できるようにしておきましょう。



道路の冠水時に車が進入しないようにする標識の動作確認



雨水などを排水するためのポンプの動作確認



各自治会の訓練の様子



改修後の河川。大雨による氾濫を防ぐため、川幅を従来の倍に広げました。川底に設置した河床ブロックには、土砂の流出を抑える効果があります。

いざという時に命を守るため



夏から秋にかけて、河川の増水や土砂崩れなどの災害が発生しやすい時期が続きます。災害に備えている訓練や対策、皆さんが命を守るために必要な情報などをお知らせします。

問合先 防災安全課

水防訓練で土のうを作る消防団員

豪雨で各地に被害

平成22年7月15日の夕方から降り出した激しい雨は記録的な豪雨となり、市内各地で道路の冠水、家屋の浸水、土砂崩れなどの被害が発生しました。特に土田地内の市道50号線アンダーパスでは、可児川の氾濫により1人の尊い命が失われ、今も2人が行方不明となっています。また広見地内では可児川の堤防の決壊により広い範囲で浸水し、多くの家屋に被害が出ました。

豪雨などの災害を完全に無くすることはできませんが、私たちが安全に暮らしていくためには、災害による被害を少しでも減らしていくことが不可欠です。そのためには過去に起こった出来事を記憶に留め、将来に引き継いでいくことが重要です。



平成22年の豪雨災害による土田地内の様子(国際航業株提供)

被害を減らすための訓練

豪雨災害を教訓とし、可児市では毎年6月の第1日曜日に水防訓練を行っています。今年は6月4日に実施し、市消防団・可茂消防事務組合・可児警察署・木曾川上流河川事務所などが連携して、被害のあった現場を確認したり、災害情報の伝達、避難所との連絡などを行いました。

訓練では他にも、アンダーパスの通行止めの標識の動作確認、土のう作り、また建設業協同組合と協力して可児川・木曾川の水位上昇に備えた排水ポンプ設置などを行い、手順や問題点などを確認しました。

各自治会の訓練には多くの地域住民が参加し、土のう作りや避難所開設を想定した避難訓練、ハザードマップ作りなどを行いました。



災害対策本部の訓練の様子

防災リーダー養成講座

地域の防災訓練や研修で活躍し、災害時には救援救護活動を担う防災リーダーを育てます。学んだ知識を地域防災に生かしてみませんか。

期日 9月10日(日)、10月15日(日)、11月23日(祝)、12月10日(日)の全4回

時間 午前9時30分～午後5時

場所 総合会館(市役所向かい)

内容 講義グループワーク、実習

※最終日には日本防災士機構が認定する防災士資格の取得試験があります。

対象者(全ての要件を満たす人)
○市内在住または在勤で平成14年4月1日以前に生まれた人

○防災リーダーとして地域の防災活動で活躍できる人
○全回出席可能な人

定員 50人(先着順)

受講料 1万1000円(教材費、

受験料、防災士証登録費)

申込方法 氏名、住所、電話番号、勤務先と所在地(市外在住の人)を

電話、☎01172、house@

city.kari.jpのいずれかで防

災安全課に申し込む

申込期間 7月10日(月)～8月1

日(火)

地域の情報を知らろう

災害が起こった時には、まず自分自身で命を守ることが必要です。自宅や職場、自分が生活している場所など、どのような危険があるのかをあらかじめ確認し、災害から身を守る方法を考えておきましょう。

防災ワークショップで点検

今年の5月には、自治連絡協議会主催の自治会長研修会の中で防災ワークショップが行われ、自治会長や自治連合会役員など約200人が参加しました。



ワークショップの様子

ワークショップでは地区ごとの地図をもとに、災害の起きる前後でのどのような行動を取るか、どのように避難するかなどを話し合いました。最後にいくつかのグループが話し合った内容を発表し、気付いた点などを参加者同士で共有しました。

ハザードマップで確認

ハザードマップには、大雨の場合に浸水が予想される区域や、土砂崩れの危険性のある区域などが載っています。日頃からマップを確認しておくことで、危険な場所を避けて移動することが出来ます。

ただし災害の規模によっては、マップに書かれていない箇所でも危険な状態になることがあります。危険な区域に指定されていなくても、危険が予測される場合は早めに避難行動を取りましょう。

マップは市役所や連絡所で手に入る他、市ホームページでも確認できます。日頃から目を通しておきましょう。



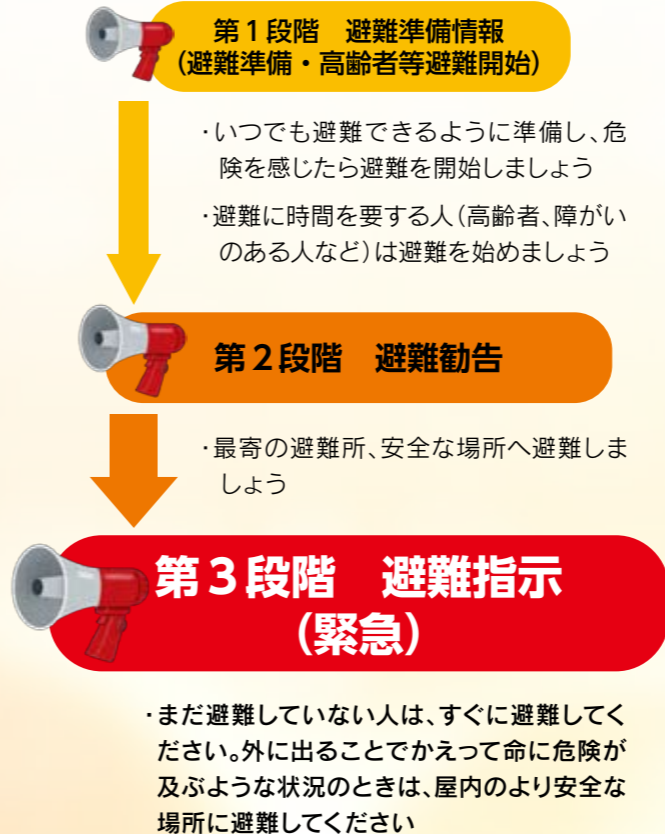
↑
ハザードマップ
掲載ページ

避難情報で行動

災害時に市が発令する避難情報には左記のものがあります。避難情報は防災無線、すべメールかななどでお知らせします。ただし災害時に避難所へ移動する場合、特に夜間や大雨で道路が冠水しているときには注意が必要です。自宅が

安全であれば、2階や山・崖から離れた部屋に避難するのも有効な避難行動です。

避難情報の段階と名称



災害情報を入力しよう

災害時に情報を得るためのさまざまな手段を紹介します。

日頃からこれらを知っておいたり、利用したりすることで、災害発生時に危険を避ける手助けになります。

メール配信サービス

「すべメール」が1

地震や豪雨などの緊急情報や、避難情報、避難所開設状況など緊急時に役立つ情報を電子メールで配信します。また通常時でも、配信を希望する情報を受け取ることが出来ます。

登録方法

- ① kan@sugai.jp に空メールを送信します
- ② 返信メールに書かれたページに進み、配信を希望する情報や地域などを選択します



配信メールイメージ



↑
すぐメールかに
登録ページ

Yaahoo(ヤフー) 防災速報

ヤフー防災速報は、緊急地震速報や避難情報などの防災に役立つ情報や、ゲリラ豪雨などの急な雨を予測する豪雨予測など、生活に役立つ情報を配信するサービスです。

災害情報を発信する手段の一つとして、今年2月1日にヤフー株式会社と協定を締結し、4月13日から県内市町村で初めて緊急情報の配信を開始しました。



緊急情報イメージ



↑
ヤフー防災速報
登録ページ

F.M.A.M

F.M.A.M市は、災害時における緊急放送に関する協定を結んでいます。周波数は「災害に強く76.8(ナローヤク)と覚えてください。緊急情報を聞くことができます。

電波の状態が悪いときにも利用できるスマートフォンやタブレットの専用アプリもあります。災害時には緊急情報を文字で配信しますので、耳が不自由な人も情報を入力できます。



↑
アプリはこちら

ケーブルテレビ可視

市とケーブルテレビ可視も、災害時における緊急放送に関する協定を結んでいます。

災害時には、緊急し字放送(画面の下部に文字放送を表示)を行います。

防災無線 電話で確認サービス

防災無線を放送した後の24時間は、その内容を電話で確認できます(通話料が必要です)。

☎0574-1548

ホームページ、フェイスブック

災害時市ホームページのトップページや公式フェイスブックに災害情報を掲載します。浸水や土砂崩れなどの被害が起きた場所、避難所の開設状況などをお伝えします。



↑
災害情報を
掲載します



↑
公式フェイスブック